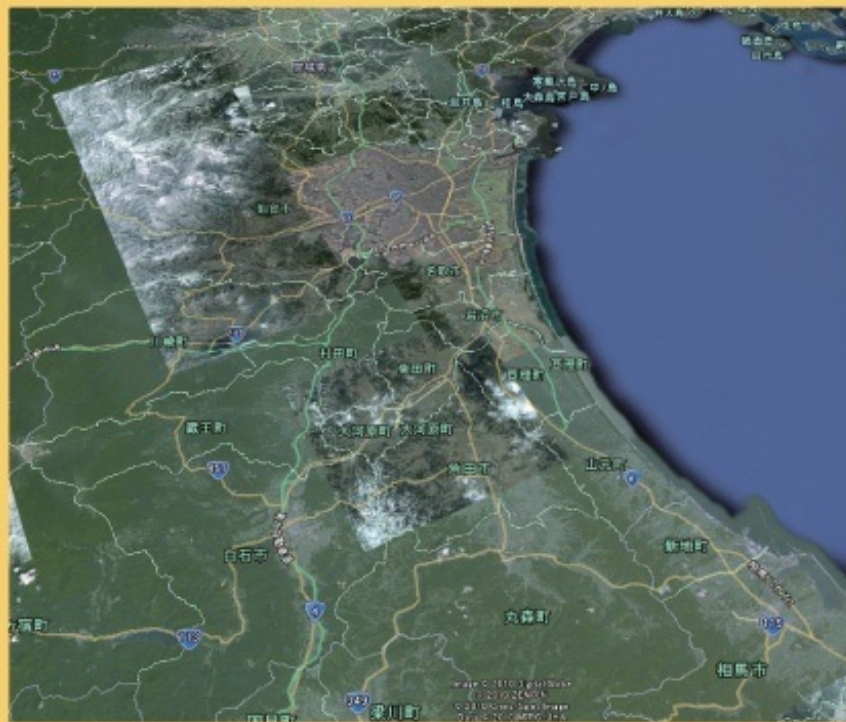


仙台の名産品

封内土産考



封内土産考① 宮城野鈴虫

江戸時代の書物に『封内土産考（ほうないどさんこう）』というものがあります。

1798年（寛政10年）に、里見藤右衛門という人が記したもので、宮城県の特産物が紹介されています。

その中からひとつずつピックアップして紹介してみたいと思います。まず1回目は「スズムシ」です。

封内土産考には122の物品が紹介されていますが、その中に『宮城野鈴虫』というものがあります。

仙台市の「虫」は「スズムシ」です。それほどまでに仙台を代表する虫であります。

鈴虫はHomoeogryllus japonicusという学名を持っていて、japonicusとあるように純日本産だそうです。

1. スズムシは飛ぶことが出来ません。後ろ羽が退化しているためです。
2. メスは鳴きません。メスを惹くためにオスが鳴くのでしょうか、メスはそのオスを食べてしまうことがあるようです。子孫を残すのはいつも命がけです。
3. また、泣き声は周波数が高すぎて電話では聞こえないといひます。

平安貴族達はカゴに入れて泣き声を楽しんでいました。源氏物語にも「鈴虫」という話が出てきます。

この中で源氏は捕まえた鈴虫を秋の風情に作り変えた庭に放したとありますので、そのような事も行われていたのでしょうか。

江戸時代に入ってから庶民の間でも虫を飼うことが始まりました。

「虫売り」も現れて、都市ではかごに入れられた虫が売られます。鈴虫は中でも代表格だったのではないのでしょうか。

宮城野鈴虫はその鳴き声の美しさで有名になったのでしょうか。宮城野原では鈴虫の大合唱が聞けたことでしょうか。

今は高森山、柊江の森、鶴ヶ谷中央公園でよく聞けるそうです。

参考文献：仙台市史通史編5近世3

封内土産考②齋川の孫太郎虫

封内土産考に載っている項目で、最初？な名前が載っていました。

それが齋川の孫太郎虫。

孫太郎虫というのは[ヘビトンボ](#)のことで、疳の虫の薬になるそうです。齋川というのは白石の齋川地区のことです。ヘビトンボというのは水の綺麗なところにしか見られず、水質の指標生物のひとつとされています。

分布は北海道から九州まで。体長3.5cm～4.5cm程度。時期は6月から9月。噛みます。アミメカゲロウ目に属するというのでカゲロウの仲間です。幼虫は川ムカデとも言われ、肉食で周りの虫たちを食べつくしてしまうそうです。

なぜ孫太郎虫というのかまでは調べきれませんでした。子供の疳に効くので孫太郎と呼ばれたのでしょうか。孫のためにおじいさんが採ってきていたのでしょうか。

因みに疳というのは小児神経症の一種と考えられていて、癩癧を起こして騒いだり暴れたり泣いたりするといいます。夜鳴きもこの一種とか。原因はストレスの他、消化器不調からくる全身の失調状態などがあげられます。鼻の付け根の皮膚に静脈が透けて見え、これがはっきり見えるほど癩癧の症状が強いらしいです。

また、その他疳の虫に効くものとしては、鍼治療、宇津救命丸、虫退治のおまじないなど色々あるそうです。

封内土産考③ ホヤ

封内土産考に「海苦凡」と出てくるホヤは三陸の珍味です。
海苦凡のほか、「老海鼠」「富也」「保夜」とも呼ばれました。

なぜ「[ホヤ](#)」かということ、古い言葉で寄生することを「ほや」という、形が「火屋（ほや。ランプシェード）」に似ているなどの説があります。

宮城県では牡鹿半島で採れる三陸のホヤが有名です。
また、ちょっと前にニュースになりましたが、韓国でホヤが人気で大量に輸出しているようです。

ホヤは独特の臭みがありますが、身を取り出した後水で洗わずホヤの汁で洗うと臭みが減るようです。
また、このわたと共に塩辛にした「莫久来（ばくらい）」というものがありますが、絶品です。
非常においしいので私の大好物です。

ただし、好きな人は好きですが、ダメな人はとことんダメです...

封内土産考④ 埋木灰

埋木灰は地下の亜炭層の含まれていた埋木を焼いて香炉の灰に用いました。香道では最高級の灰とされています。もともと亜炭層に含まれている埋木は炭化しているので、きめ細かい灰がつかれるのでしょう。亜炭層は仙台では青葉山段丘にあり、現状では沢の絶壁に露頭しているようです。層の年代は数百万年前に相当します。

この埋木は採るのは非常に難しく危険ですが、これより古い年代の埋木が、広瀬側の大橋のところで見るすることができます。こちらは凝灰岩層に入っています。凝灰岩は昔の溶岩が堆積したもので、溶岩の熱で蒸されて炭化した木が埋木です。

江戸時代、お金のない武士はこの埋木を家財道具（お盆やたばこ盆など）に細工して小遣い稼ぎをしていました。これが埋木細工で、壊れやすく細工しにくい埋木を器用に手を入れて見事な工芸品にしています。

今に生きる名人！ →

<http://archive-www.smt.city.sendai.jp/kyozai/v04070.html>

近場で一番埋木を見やすい場所といえば「地底の森ミュージアム」です。ここは2万年前の埋没林が発見され有名になったところですが、ここで発掘された樹木が埋木です。今は樹脂含浸され焼いても綺麗な灰にはなりません、旧石器時代の林はそれは見事なものです。

地底の森ミュージアム →

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/>

封内土産考⑤ 金山紬

封内土産考に出てくる「[金山紬](#)」についての話題です。

紬というのは絹織物より下のランクの織物として位置付けられますが、ざっくりとした風合から人気もありそれなりに高価です。綿または、絹織物に使える太い絹糸を使います。全国に産地があり、大島紬、結城紬、琉球紬、米沢紬などが有名ですね。

とても丈夫なので、正装ではなく普段着の着物として使われます。

金山紬は宮城県の丸森で作られました。水のきれいな丸森は、今も織物の名産地です。

封内土産考⑥「案内の湯豆腐」

案内は、今の東仙台付近です。案内公園という地名で今も残っています。

封内土産考に出てくる「案内の湯豆腐」ですが、「宮城郡小田原村案内（東仙台）で茶屋を営む卯兵衛が製造し、7代藩主伊達重村が「名物」の号を与えた」とあります。

また、橘南谿（たちばななんけい）の「東西遊記」にも紹介されております。

橘南谿は（1753-1805）は、江戸時代後期の医者で、橘が仙台に来たのは天明5年（1785）から翌年にかけてのことで、東西遊記は寛政7年（1795）の刊行です。

